2. 地域と連携した防災活動に係る調査等
観光客の防災意識に係る調査　ー観光防災における課題ー

倉橋奨・横田崇

1. はじめに

地域における防災は、取り組まれている地域があるものの、殆どの地域において十分な検討がされていない状況にある。地域防災の推進を図るには、各地域における防災への実態とその課題を明らかにしたうえで対処策を検討することとなるが、これには地域住民の方々等と連携し、一緒に検討していく必要がある。本プロジェクトとでは、南知多町、田原市、志摩市、豊田市などと地域連携における活動を継続しながら、地域防災活動が継続するために必要な要素等について調査しており、各地域の避難訓練時において地域住民にGPSを持って避難していただき避難速度の算出や避難時の問題点の抽出、地域住民の防災意識調査による地域の防災意識の分析、観光客における防災意識調査を実施してきた。本年度も同様に実施をしたが、本報告ではその中の観光客における防災意識調査について報告する。

2. 観光客の防災意識に係る調査　ー観光防災における課題ー

東海地域では、南海トラフ地震による甚大な被害が予想されているが、現状の地震対策は地元住民を対象にしたものが殆どで、遠方から訪れたその土地に不慣れな観光客に対しては、防災対策が行き届いていないのが現状であり、観光客に対する防災対策が大きな課題となっている。本研究では、観光客に対する防災対策の検討を目的として、観光地を訪れる観光客自らの防災対策への意識についてアンケートを実施する。また、地方公共団体及び観光協会等と、観光客の防災体制の現状について意見交換をし、観光防災の課題と取り組む内容の進め方について検討する。

今年度および過去に行ったアンケート調査結果を基に分析する。アンケート調査の諸元を表１に示す。

表１　2022年度、2023年度に実施した観光客に対するアンケート調査概要

	アンケート場所	対象者	回答人数
2022年	愛知県南知多町　花火大会会場	内海花火大会観覧者	201名
	愛知県田原市　道の駅	観光客	66名
	北海道厚岸町	観光客	24名
2023年	三重県志摩市　避難訓練の避難場所	避難訓練参加の観光客	22名
	愛知県田原市　道の駅	観光客	56名
	愛知県豊田市　香嵐渓	観光客	78名

3. アンケート調査結果

3.1　地震発生を想定した準備状況

図１左に、観光を目的に訪れた観光客が、観光地で地震発生を想定した準備をしているかの結果を示す。合わせて、その方々が自宅で地震対策をしているかの結果を図１右に示す。訪れた観光地では、多くの方がその地点で地震に遭遇した時の地震対策を行っていない一方で、自宅では半数以上の方が、何かしらの対策を行っている

結果となった。これらの結果をクロス集計した結果を図２に示す。

自宅では地震対策を実施している、普段は防災意識が高い方でも、観光地に訪れた場所での地震対策を行っていないことがわかる。

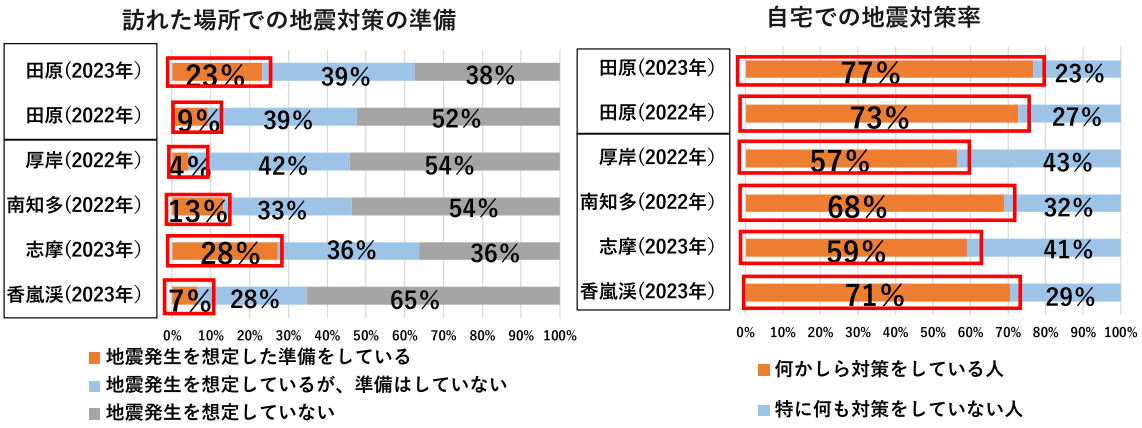

図１　観光客における訪れた場所での地震対策状況と自宅での地震対策状況

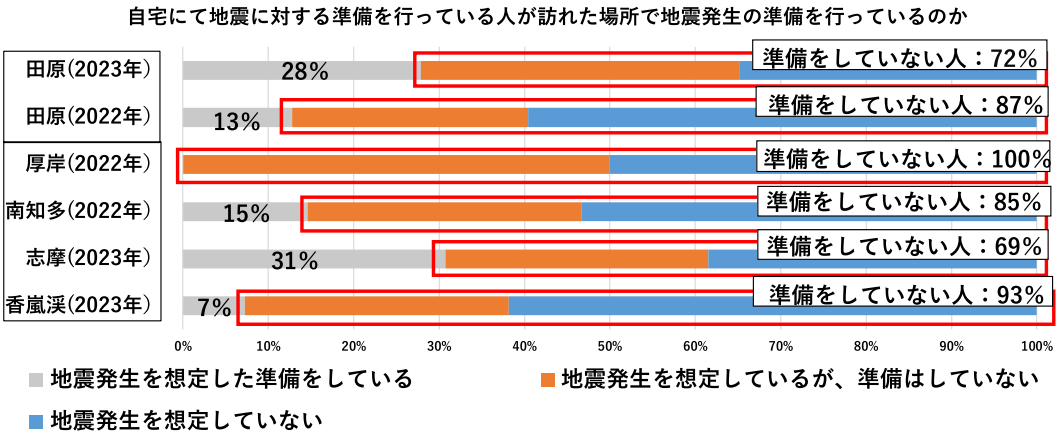

図２　訪れた場所での地震対策状況と自宅での地震対策状況のクロス集計結果

3.2　ハザードマップと避難場所の認知率

次に、図３にハザードマップと避難場所の認知率の結果を示す。ハザードマップの認知率は、かなり低い。避難経路と避難場所の認知率も、ハザードマップの認知率よりは高いものの、30%前後と低い状態である。対象地域は、香嵐渓以外は海岸の近くであり、巨大地震発生時には、津波が到達する可能性が高い地域であるため、いち早くその場所の安全性の確認および高台避難が必要であることを考慮すると、認知率の向上の喫緊の課題である。

図４に、避難看板の認知率の結果を示す。避難看板の認知率は、ハザードマップや避難経路等と比べると若干高い。一方で、図４（右）には、志摩市にある避難場所の一つの場所の避難看板の様子を示す。避難訓練時の避難場所にもなっており、避難訓練時にここに避難する方は必ずここを通るのだが、アンケート結果では半数の方が「避難看板を知らない」と回答しており、意識をしないと、看板があっても認識されないことがわかった。

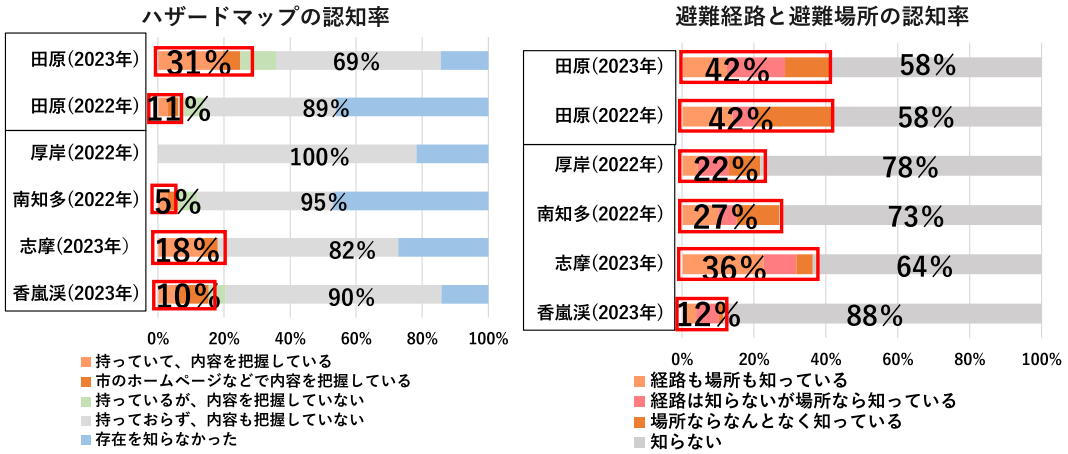

図３　観光客におけるハザードマップ、避難経路、避難場所の認知率状況

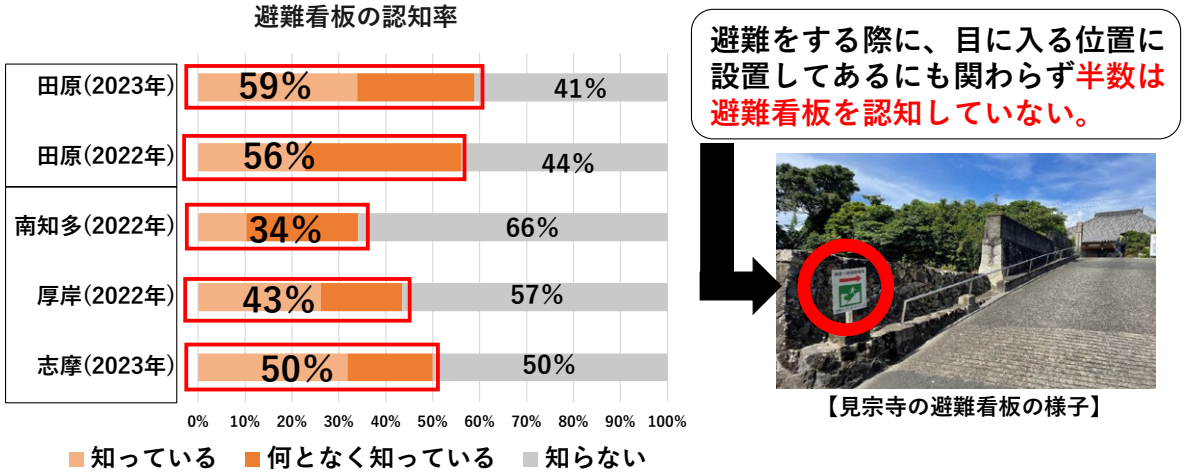

図４　（左）避難看板の認知率と（右）避難場所における避難看板の様子

3.3　災害発生の移動手段と連絡手段

図５に災害発生の移動手段と連絡手段のアンケート結果を示す。移動手段は、徒歩、自動車の割合が高くなっている。近年では東日本大震災の教訓から、特定の条件の上で自動車避難の計画を策定する自治体もあることから、適宜その状況に応じた移動手段の選択リテラシが必要である。また、連絡手段としては、携帯電話が多いが、電源消失や輻輳などの問題もあるため、第２、第３の手段も考慮しておく必要がある。

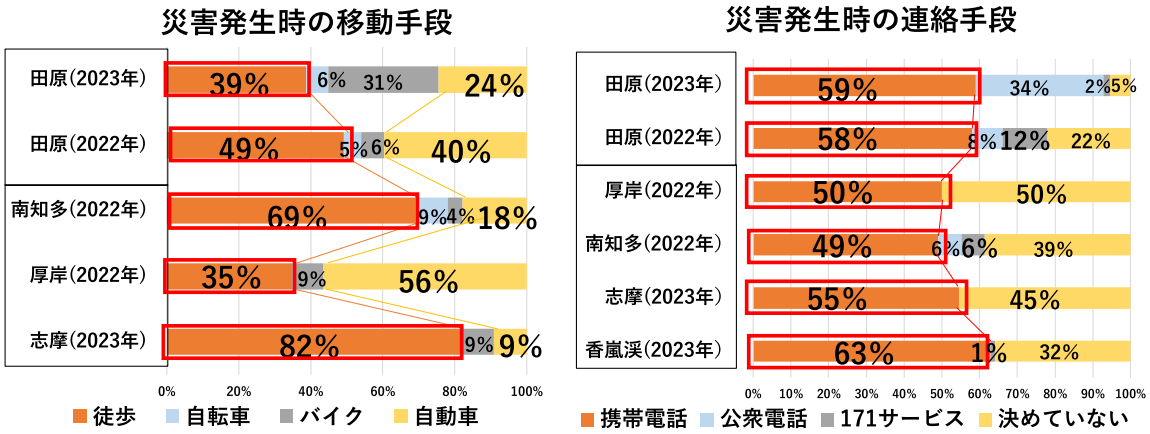

図５　観光客が災害時に想定している移動手段と連絡手段

4. 香嵐渓での観光防災の検討内容

今年度、豊田市役所の協力を得て、商業観光、足助支所、公社支所の方々とワークショップ形式で、①避難場所・避難誘導②備蓄食料③ハザードマップの周知について議事を行った。その中で、香嵐渓における観光防災の現状として、以下の問題点が浮かび上がった。

１）避難場所を用意できていない。繁忙期は、市の職員だけでは避難誘導が困難である

２）観光客向けの備蓄食料は用意されていない

３）災害に関する情報を伝えるような取り組みが行われていない

特に、図６に示す「揺れを感じた時に取る行動」のアンケートの結果では、観光客への情報提供をするなどの行動をとる回答がなかったことから、地域や役所全体として、観光防災を考えていかなければいけないことが示唆される。

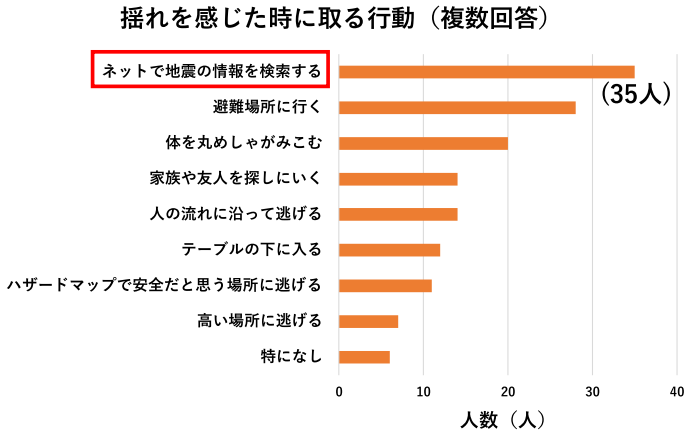

図６　豊田市の関係団体における「揺れを感じた時に取る行動」のアンケート結果

このワークショップでは、今後の検討すべき事項を以下のようにまとめられている。

１）避難場所として駐車場の利用も考えられるが距離がある。車中泊避難も検討

２）住民用の食料を流用することが出来るか

３）豊田市の観光案内HPを用いた周知方式を検討

また、住民と観光客とは分けて対策を行うことも検討が必要かもしれない等の意見があった。

4. まとめ

最後に、本研究を以下のようにまとめる。

⑴　観光地に訪れた観光客に対するアンケート調査

・観光先での地震に対する準備を行っていない。

・ハザードマップや避難場所の認知率は低い。

・訪問回数と避難場所の認知率に関係があることが明らかになった。

・災害発生時に「徒歩避難」、「171サービスの利用」を周知させる必要がある。

⑵　香嵐渓での防災体制の検討内容

・観光客が避難をするスペースや備蓄食料は確保されていない。

・災害に関する情報を伝えるような取り組みは行っていない。